

令和6年度 第2回藤島地域振興懇談会 会議録(概要)

期 日：令和7年3月24日(月)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

第2回藤島地域振興懇談会(会議概要)

- 日 時 令和7年3月24日(月) 18:00~20:15
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員 8名:萬年 義憲、佐藤 智信、疋田 勝幸、神林 守、大沼 富美雄、近藤 直志、
高山 千代子、今野 良和
- 欠席委員 6名:齋藤 金廣、星川 洋平、石川 由美子、池田 玲子、中田 由香、齋藤 直美
- 市側出席職員
- 〈企画部〉 地域振興課地域振興主査 渡部 久美子
- 〈藤島庁舎〉 支所長 成田 譲、総務企画課長 小林 雅人、市民福祉課長 出村 真一、
産業建設課長兼エコタウン室長 上林 喜博、
総務企画課課長補佐 後藤 春雄
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤 優
総務企画課主査 村田 喜栄
総務企画課総務企画専門員 菅原 篤
- オブザーバー 山形県立庄内農業高等学校 校長 酒井 孝

○次 第

1. 開 会 小林 雅人 総務企画課長
2. あいさつ 萬年 義憲 藤島地域振興懇談会会長
3. 報 告

(1) 令和6年度第1回藤島地域振興懇談会での質問事項について 報告資料1

4. 説 明・協 議

(1) 令和7年度藤島地域主要事業について

・令和7年度藤島地域まちづくり未来事業

資料 1-1

・藤島地域主要事業及びまちづくり未来事業について

資料 1-2

(2) 藤島文厚エリア等検討事業について

資料2

(3)その他

5.その他

3. 報告

- (1) 令和6年度第1回藤島地域振興懇談会での質問事項について 報告資料1
(支所長、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長説明)

委員より意見・質問

【委員】

県トラック協会と協定締結について、第1回懇談会で全市的な協定を提案し、市長からもぜひ結びましょうとコメントがあった。早急に検討いただきたい。

【総務企画課長】

早急に対応する

【委員】

1回目の懇談会での意見に対して新年度にどのように反映されているのか。具体的なものを教えてほしい。

【総務企画課長】

- ・質問3 災害時のSNSの活用は、具体的にはLINEを使ったもので、グループに入っていたくことを前提にすすめていきたい。
- ・質問6 学校開設時間であれば庄農高へ緊急避難は可能。基本は市の指定避難所への避難。
- ・文厚エリアはこれから検討する事項。中心は学校建設。エリア内の施設は意見頂戴しながら進めるもの。

【産業建設課長】

- ・質問5 河川の要望関係は、鶴岡市重要要望事業のなかで新規で行う。藤島庁舎で継続して要望していく体制を整えた。流域プロジェクトの勉強会に参加し、具体的計画策定に積極的に参加していく。
- ・質問7 東堀越の災害現場は、個人で造成した道路と水路のため市では手直し程度の修繕。U字溝や農地侵入口は多面的機能支払での対応することを事業主体に報告している。
- ・質問11 資格取得支援については、市で新たな事業の構築には至らなかった。国の制度に同様の支援(建設事業主等に対する助成金)があり、出羽商工会に照会してほしい。

【委員】

LINEを使った連絡網の構築はぜひ進めてほしい。以前、自治振興会でグループラインを作ろうと動いたが3割の参加で、ガラケー(LINEが使えない)や、LINEを使いたくない人もいる。緊急時の情報共有の必要性、LINEの有効性を理解いただいて進めてほしい。

【総務企画課長】

個別具体的に進めていきたい。

4.説明協議

(1) 令和7年度藤島地域主要事業について

・令和7年度藤島地域まちづくり未来事業

資料 1-1

・藤島地域主要事業及びまちづくり未来事業について

資料 1-2

(支所長、総務企画課長・市民福祉課長・産業建設課長説明)

【庄内農業高等学校長】

・探究学習を進めている

農業関係の DX やドローンを活用した農業、庄農うどん＝庄内の小麦を使ったものを検討
農福連携…こども食堂への取組に関心

・魅力発信

入学予定者34人、少子化の影響もあるが、もっともっと頑張りたい。

探究学習、小中学校の参考になると思う。庄農生の話を聞く機会を設けるよう呼び掛けをお願いしたい。

・進学で若い人が県外に出ていく。高校の教員を小中学校の保護者との教育座談会に呼んでいただき、高校の立場から話をしたい。

・避難所…市町村と協定を結んでいるか、県から調査があった。県も市町村と連携しながら動いていると思う。

委員より意見・質問

【委員】

資料 1-1p2 定時定路線はどういうものか。

【総務企画課 齋藤主査】

決まった時刻・ルートでの運行になる。清川線と同じく停留所間を運行する。詳しくは4月広報と一緒に手引きを各家庭に配布する。一方デマンドタクシーは予約あった時運行するもの。

【委員】

定時定路線の料金や定期券はあるのか。

【総務企画課 齋藤主査】

清川線の半額くらいの低料金となるので、定期券は一般の方のものは用意しないが、学生については定期券補助事業があるため用意する。利用の手引きが各家庭に4月配布されるので確認いただきたい。

【委員】

県道藤島駅線の新町橋はどのように考えているか。

【産業建設課長】

新町橋の車道拡幅を期成同盟会の要望書に取り上げ要望しているが、実現に立っていない。継続して要望していく。

【委員】

資料 1-1 p5 の 15 藤島ふれあいセンター管理事業について、ふれあいセンターを活用しづらいと感じる。各利用団体の物品の保管は目的外であると思うが、これまで認められてきたものが、管理者が変わって、保管できなくなったと聞く。センターの活用度がどのようになっているのか。子育て支援事業など市側の事業で活用しているようだが、他の団体の活用が少ないのでないか。あまり利用されていないのであれば、児童館として活用したらよいのでないか。

【市民福祉課長】

管理運営規定が手元にないため後で答える。昨年、ロッカーの在り方を見直し、利用団体に対して、既存ロッカーの割り振りをした。利用している団体であれば置けるはずである。

主な利用については、子育て支援センター、指定管理者主催の運営会議、福祉団体の 100 歳体操、社会福祉協議会の会合、書道教室、絵手紙教室、遺族会の会合、囲碁将棋のサークルなどの利用がある。

【委員】

利用日数的にはどの程度か。利用頻度の高い施設となっているか。

【市民福祉課長】

R5実績で10か月延べ 354 日 5,208 人、50%以上の稼働率である。

【委員】

稼働率 50%は自分の感覚では利用されていないと思うが、他の施設と比べると高いのか。

【市民福祉課長】

活動センターはもっと高い。活動センターと比べると低いと思われる。

【委員】

ぽっぽの湯の R6 利用者数は、19万人を突破する見込み。2年連続で10%増。田んぼの台所からおいしい料理を提供いただき、憩いの場として土日は家族連れが多い。施設は 24 年経過し、いたるところが壊れている。できる範囲で直しているが、つぎはぎの状態。7月から 50 円上がると 950 万円増収し、入湯税で 1300 万円の収益を見込める。源泉工事は昨年 12 月終

了し、湯量が 120 リットルに増え、かけ流しをおこなっているが、お客から喜んでいただき集客につながっている。行政には予算増額をお願いしたい。

【委員】

ぽっぽの湯の食堂、毎月値上げしている。食材費が値上がりしているため、これまで通り利用していただくために、食材費の補助があるとありがたい。

庄内農業高校連携事業の 100 万円の予算、うどんを評価していただいていると思う。この予算の使途は決まっているのか。

【支所長】

連携事業については、ここ2・3年は 100 万円のまま。うどん事業がマスコミに取り上げられ、優良な事業であると認識され、20 万円ほど上乘せした。事業として進化していく、たとえば庄内産など食材にこだわって進めていくなど、地域に説得力があるような事業であれば支援できると思う。また、就職の際、食産業の引き合いが高いと聞く。地域に貢献できる人間の育成につながるような事業であればなお良い。

【委員】

ある程度要件が決まっていると理解した。

そこで、観光協会の役員として、2名庄農生を迎え入れたいと考えている。全国初の取組でないか。役員として観光協会に関わることで、情報発信、PR、大人との議論で自身を磨いてほしい。地元愛の育みにもつながる。そちらにも使わせていただけないか。

【支所長】

観光協会には応分の支援があるので、そこは住み分けていただきたきたい。

【委員】

わかりました。連携事業は庄農うどんから外れないように使わせていただく。

【委員】

ふれあいセンターの話があったが、中町町内会で引き受けて3年になる。貸館が主なため、利用者が大きく増えることはない。PR は指定管理者なのか行政なのか。合わせて利活用について PR してほしい。今の町内会長が市職員 OB だからできるが、町内会長が変わったら負担になるのではないか。指定管理の受け皿となるような NPO などの組織を作って、町内会役員の負担にならないような形を考えるべきと思う。町内会長のなり手がいない昨今、庁舎と一緒に相談しやっていかねばならないと考える。

【市民福祉課長】

公募したが受け手がなく、中町から受けてもらった。今回も更新にあたって、相談させていた

だいた。町内会が受けるのは困難になっており、あり方の検討が必要な時期に来ていると認識している。今後は利用拡大のPRも含め庁舎としても考えていきたい。

【委員】

庄農は入学者が少ないことが悩み。入学者の減少は学校そのものの魅力減少につながる。子供たちはいい子たちで、農家の子供は少なく、サラリーマン家庭が多い。入学目的がはっきりしているわけではないが、地元に残る子が多い。高校生が先端研に出向いて共同研究しているという話があるが、庄農の子供たちも農業の先端を学ぶ機会があれば連携し、そこで学ぶことができるかという話があった。先端研は研究ブースが足りないと聞くと、庄農高校には空きスペースがいっぱいあるので利用できないか。県立高校であるが、市と連携し新しい形で取り組んでいければ、子供たちへのPRにもなるのではないかと。県外からも入学できるように変わったので、新しい取り組みができないか市はどう考えるか。

【支所長】

先端研では高校生が研究助手をやっている。研究の仕方など高校生のうちから身につけ、大学進学への推薦もいただける場合もある。人数については企画部に聞いてみる。研究室は満室になって旧栄小学校舎をラボとして利用したが、それも満室となり増室している。メタボローム解析機材など様々な設備が必要となる。市でも費用をかけて増室しているので、場所を移すことは大変だと思う。

【委員】

庄農を存続するために、どのようにすればよいか、考えてほしい。普通の考え方では人が集まらない。

【支所長】

高校を存続させたいとの思いから庄農連携事業を実施している。高校の再編について、県でR7年度に方針を出す予定。こちらにも注視しながら、存続について庁舎でも考えていきたい。

(2)文厚エリア等検討事業について

(総務企画課長補佐説明)

委員より意見・質問

【委員】

学校の方向性が決まり、これからの藤島のまちづくりを考えるうえで絶好のチャンス。初めての取組で不安もあるが、これからの藤島の活性化を考えていく上で重要である。庁舎を中心に力を入れて取り組んでいただきたい。先進地視察でどう感じたのかを伺いたい。

【総務企画課長補佐】

昨年 11 月、東京都、埼玉県に、総務企画課と市民福祉課の担当職員で視察に行った。初日は小学校に図書館分館、学童の施設が複合したものを見学。近接していたが、学校の管理の兼ね合いから、シャッター等で建物は分離されていた。学校と図書館、学童も非常に近く、学校が終わってからの送迎や、行きやすい環境が良いとの意見を伺った。2日目は、中学校と児童館、子供ティーンズセンター、図書館分館の複合施設。学校と地域の図書館の区画で分離されていたが、施設ごとの総合交流がうまくいっており、幼児から青少年まで幅広いニーズに対応した施設で目新しい施設と感じた。藤島ではどういう組み合わせとしたらよいのか、話し合いが必要と感じた。

【委員】

基本構想は年内に取り組むとあるが、それを受けた上で校舎を検討するのか。今の中学校の状況を考えると、音楽室の天井落下や危険を避ける張り紙があり、いつ危険があってもおかしくない。それなのにこれから7年も使用するのか。できるだけ早い形で校舎建設を進めてもらわないと、若い世帯が市街地に引っ越してしまうのでないか。小学校では複式が拡大し、転校し始めている。できるだけ早く複式を解消し、校舎を建設しないといけない。開校までの期間を短縮できないか、調査に1年かかるのか。義務教育学校を建てると決めたわけなので、文厚エリア構想と並行して検討できないのか。文厚エリアの基本構想を作ることが学校の建設を遅らせている原因でないか。「市長と語る会」の場で市長に申し上げたが、期間を短縮して早く建設してほしい。設立準備委員会はソフト面だけ、校舎建設については何もできていない。どういった校舎をつくるのか別個に検討するとまた遅くなるのでないか。庁舎はどう考えているのか。財政的に厳しいから早くなることはないという人もいる、質問といいながら意見となったが、庁舎の意見を聞きたい。

【支所長】

学校は教育委員会所管で、庁舎では急いでくださいとしか言えない立場。私たちができることは周辺の将来像を早く示していくことだと考えている。資料の工程は教育委員会から示されたリミット。庁舎のせいで遅れているといわれないようにやっていきたい。学校と複合してメリットのある施設なのか、活用できる施設なのかという視点に立って考えていきたい。新しい学校への複合化だけではないことも含めて考えていきたい。

【委員】

我々は庁舎にお願いするしかないなので、地域住民の声として、支所長に頑張っていていただいて、教育委員会への働きかけをしてほしい。

【支所長】

そのスタンスで考えている。市長と語る会でも市長には伝わっていると思う。

【委員】

令和14年度完成とあるが早くならないのか。やると決めたのだから、早く子供たちが恩恵を受けられるようにしてほしい。できるだけ、はやく子供たちが新しい生活に入れるよう、リーダーシップをとってもらいたい。

【委員】

早く決めないと基本設計に入れない。スケジュール通りやっていただきたい。

【委員】

資料2のp2見ると、対話するイメージ図があるが、していないのでないか。実際は一方的に情報を聞いて、意見を聞かれただけ。P4にあるが今の図書館は狭く、使いづらい。できたところには学校の空き教室がいっぱいあるのでないか。空いたスペースを有効活用してもらいたい。

【支所長】

設立準備委員はR7立ち上げ予定。準備委の詳細について庁舎では聞いていない。

【委員】

これを急がないとすべて遅れる。

【委員】

今日出た意見を十分に検討いただきたい。

【萬年会長より謝辞】

在任期間中6回開催、多く意見をいただき感謝申し上げます。他に誇れる義務教育学校を作っていただきたい。

【成田支所長より謝辞】

地域の主要課題が集中した時期でのご協力に感謝する。文厚エリアは庁舎の責任としてやっていきたい。藤島の特色と考えるのは、Hisu花、元気米の販売など、地域と一緒に取組を行っていること。今後も地域から共感いただき、一緒に事業を進められるよう努めたい。自分は役職定年となるが、本日の意見等は後任に伝え、継続して取り組んでいく。